

# 琉球大学学術リポジトリ

## はしがき

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学アジア太平洋島嶼研究センター 公開日: 2012-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大城, 肇 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/22972">http://hdl.handle.net/20.500.12000/22972</a>

# は し が き

平成 17 年 9 月 1 日（木）～3 日（土）にわたって「国際島嶼ワークショップ」を開催した。本事業は、アジア太平洋島嶼研究センターの平成 17 年度中期目標実現推進事業として実施した。内容は次の二つの柱からなる。予算規模の小さい研究センターであるが、笹川太平洋島嶼国基金の外部資金をはじめ本学の重点化経費でもって今回の大きな会議を開催できたことを関係者に厚くお礼申し上げたい。

①世界島嶼会議沖縄プレ会議：平成 17 年度中期目標実現推進経費（重点化経費）

②やしの実大学：笹川太平洋島嶼国基金の業務委託費（外部資金）

今回のワークショップの招待者は、笹川太平洋島嶼国基金による招待者 8 名を含め、海外からの招待者は 8 カ国・地域から 11 名を数えた。加えて、ハワイ大学と慶応大学、および県内の研究機関から多くの自主参加があった。

第 1 日目（9 月 1 日午前）の専門家会議から 1 日目午後の公開シンポジウム（那覇市）、2 日目午後の公開シンポジウム（平良市）を通して、多くの事柄が議論された。島嶼が抱える諸問題に対する共通認識が得られ、互恵的パートナーシップで継続的な取り組みを行う必要性、ミクロネシアの大学との具体的な学生の相互交流を進めること、遠隔教育など教育ネットワークの構築につながる協力体制づくりに向けた取り組みが必要であることが確認された。

グローバル化が進展する時代に人口の小さい島嶼が生き残るには、海外とのネットワークが必要であることもシンポジウムでの共通認識となった。

さらに、島嶼地域は経済発展とともにいかに自然環境を保全するかという課題を背負っていることについての認識も一致した。

今回のシンポジウムで海外の参加者からもっとも高い評価を受けたのは、宮古農林高等学校教諭の前里和洋氏の取り組みであった。ストックホルム・ジュニアウオータープライズを受賞した高校生の取り組みは、多くの海外からの参加者の目を引いた。

ワークショップ終了後に、ミクロネシアの高等教育機関の学長ならびに副学長から、今後の笹川太平洋島嶼国基金事業（やしの実大学事業）のあり方について貴重な提言をいただいた。この提言をもとに、次年度以降もミクロネシアの大学、地域、行政機関等とのパートナーシップの強化につながる事業の展開ができることを願っている。

最後に、「海は私たちを隔てるものではなく結びつけるものである」というグラント・マッコール氏（国際島嶼学会会長）の言葉を引いて結びとしたい。

2006 年 1 月 10 日

大城 肇  
琉球大学  
アジア太平洋島嶼研究センター長